

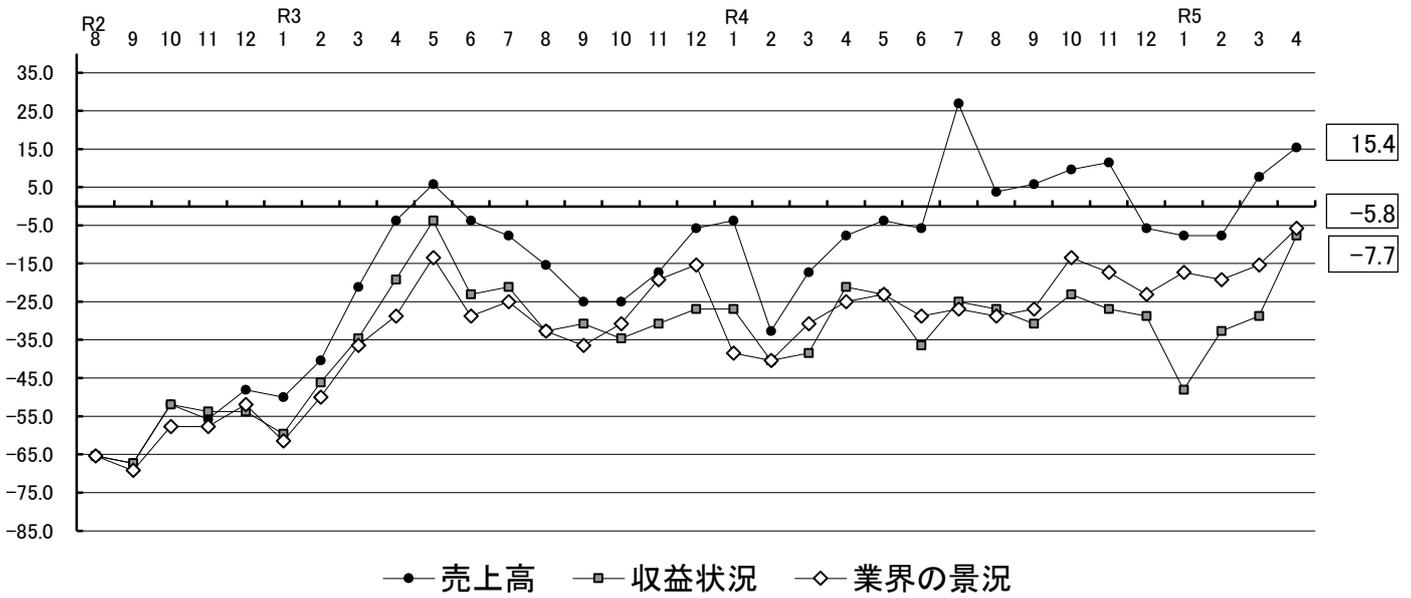
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年4月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、「売上高」「収益状況」「業界の景況」いずれも上昇した。
- 製造業では「木材・木製品」が依然として厳しい。非製造業では全般的に人流の動きが好転につながっている。
- 新型コロナウイルス感染症の収束に伴い消費活動の活発化が見られ始めたが、不安定な世界経済で油断できない。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+15.4	+7.7	+2.7	-6.3
収益状況	-7.7	+21.2	-23.1	-0.4
業界の景況	-5.8	+9.6	-17.1	+0.1

### 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より7.7ポイント上昇し、+15.4ポイントとなった。全国においては、前月より6.3ポイント下降し、+2.7ポイントとなった。

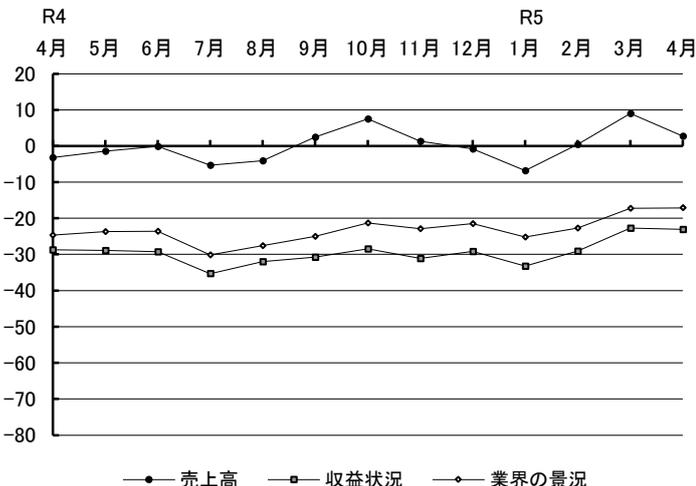
### 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より21.2ポイント上昇し、-7.7ポイントとなった。全国においては、前月より0.4ポイント下降し、-23.1ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より9.6ポイント上昇し、-5.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.1ポイント上昇し、-17.1ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

4月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中「販売価格」以外はすべて上昇した。主要3指標は「売上高」は7.7ポイント、「収益状況」は21.2ポイント、「業界の景況」も9.6ポイントと、いずれも改善した。

製造業は、生産・製造量の増加により全般的に好転した。しかしながら、「木材・木製品」は住宅着工数の減少と価格転嫁が十分に進まないことで苦境が続いている。

非製造業においては、イベント等の再開や人流・物流の活発化に伴い好転とする業種が多く見られた。「運輸業」では売上高の上昇に加え価格転嫁の進展により、状況の改善につながっている。一方、「小売業」では物価高に歯止めがかからない状況に苦戦を強いられている。

製造業・非製造業ともに、消費活動が好転し多くの業界で収益状況が改善したが、原材料およびエネルギー価格高騰がなおも続いており安定した状況とは言えない。経済の回復基調に伴い、人材不足や後継者不足の問題が深刻化している。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	100.0	50.0	50.0	-25.0	0.0	-25.0	25.0	0.0	25.0
繊維・同製品	0.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
木材・木製品	0.0	0.0	25.0	0.0	-75.0	0.0	0.0	-25.0	-75.0
印刷	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
窯業・土石	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	0.0	0.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0
一般機器	25.0	0.0	0.0	-25.0	25.0	-25.0	0.0	0.0	25.0
製造業	28.0	8.0	28.0	-16.0	-8.0	-12.0	0.0	-4.0	-8.0
卸売業	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
小売業	-28.6	0.0	14.3	-42.9	-57.1	-28.6		0.0	-57.1
サービス業	-33.3		50.0	16.7	16.7	16.7		-16.7	16.7
建設業	20.0		40.0	0.0	-20.0	-20.0		0.0	0.0
運輸業	50.0		0.0	25.0	50.0	0.0		0.0	50.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	3.7		0.0	33.3	-3.7	-7.4	-7.4	-3.7	-3.7
全体	15.4		5.7	30.8	-9.6	-7.7	-9.6	0.0	-3.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年				5年				前月比					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月	1月	2月	3月	4月
売上高	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4	7.7
在庫数量	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	2.9	2.9	-2.9	5.7	8.6
販売価格	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	23.1	25.0	36.5	30.8	-5.8
取引条件	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-9.6	1.9
収益状況	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	-7.7	21.2
資金繰り	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-9.6	9.6
設備操業度	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	-0.0	8.0
雇用人員	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8	3.8
業界の景況	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	-5.8	9.6

## 特記事項

## 情報連絡員報告（令和5年4月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	原材料の高騰が続いており、価格見直しのタイミングが難しい。地域状況としては、観光地を中心に客足が戻っている。
	めん類製造業	コロナ禍の影響が次第に落ち着きイベント等の再開も増え、昨年比で売上も伸びつつある。また、宇都宮市内の同業者の廃業等で新規客が流れて来ている状況もある。長らく困難が続いた採用状況では、若い人材採用に繋がった組合員もいた。高騰が続いている材料費・燃料費については、主原料である小麦粉・そば粉の6月からの値上げ発表があり、昨年に続く価格転嫁の検討・準備を始めた組合員が多くいた。
繊維工業	縫製業	主とする製造商品の生産が確実化し、業務自体は安定してきている。資材・運送料高騰が続いており、価格転嫁できず継続して苦しい状況だ。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	前年同時期に比べ、売上は堅調に推移した。今後の感染症の扱い及び新年度に向けての消費者意識に変化があればと期待しているが、全体的には小さな動きとなっている。レース関係は春夏が繁忙期だが、しばらく業況変化はない様子なので、秋冬用の企画が始まる9月以降に提案できるサンプル生産に注力している。各種助成制度が終了し借入返済が始まり、且つインボイスなど新たな制度が開始されようとしている中、地に足着いた仕事が求められていると強く実感している。
木材・木製品	一般製材業	住宅用輸入材の価格低下の影響により、国産材価格も低下しているが、住宅着工数が伸びないため難しい状況が続いている。
	家具・建具製造業	売上・販売価格は上昇しているものの、材料・エネルギー価格上昇分を十分に価格転嫁できていない。厳しい収益状況から脱せず景況悪化感を強めている。働き方改革から起因する人手不足も慢性的になりつつある。
	木材・木製品製造業	地場の工務店等の住宅着工数が減少しているため、建築用木材の取引量が減っている。
印刷	印刷業	コロナ禍の影響が次第に縮減し、全体的に景況感は持ち直しているが、未だ印刷価格が上昇に転じている。材料費・光熱費のコスト上昇も継続していることから、その他の課題解決へシフトしていかなければならない状況だ。
窯業・土石製品	石灰製造業	昨年に比べ、鉄鋼向け・建材関係は増加、肥料関係は減少、全体では増加した。鳥インフルエンザ関連の消石灰の出荷があった。
	陶磁器・同関連製品製造業	春の陶器市が開催され、業界内に活気があふれている。来場者数は358,000人となり、製陶者も潤っているようだ。イベントが落ち着き、当面の間、原料の売上は落ちる見込みだ。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車関係においては、忙しさを感じない新年度開始となった。特に開発試作や金型については話題に乏しく、GW前において厳しさが増している。コロナの影響も落ち着きつつあるものの、再び感染者が出ており、連休前の生産シフトにも苦慮している。足利市内においては、市場を代表する足利海産（株）倒産など、小口の閉業・倒産が増加しており経済環境の厳しさを痛感する。協同組合や各団体の総会など始まったが、脱退したい声も数多く、代表・役員の受け手も年々減少しているのを実感している。
	金属製品製造業	問題点として人件費上昇と人材確保があげられる。

一般機器	一般機械器具製造業	前年同月比では全般的には不変だが、収益が減少した企業も多数見られた。引き続き仕入資材価格は高値傾向で、更なる経費値上げの懸念も継続している。これに対し、価格転嫁できている企業も散見するものの、未だ交渉中の企業も少なくない。操業度はほぼ前年同様で、人手不足により今後の見通しに不安を感じている企業も見られる。世界情勢に揺さぶられる経済状況で、懸念が多い。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き、売上高・収益・業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。仕入単価上昇の影響により利益率減少とする企業もある。
	各種商品卸売業	人流の増加に伴い商品流通量は増加傾向にあるが、今後は商品価格の高騰による需要減少が懸念される。コストアップに伴う価格転嫁がしにくい上、燃料の高止まりなど、利益率が減少している企業も多い。
小売業	その他の小売業	原油価格高騰や円安の中、料金激変緩和対策事業が始まった。繁忙期中の急な開始で事業者への負担が多く、参画を断念する企業も出た。手続きの簡素化や手法等の見直しを要望する一方、予算の余剰及び新たな予算確保の中、第2弾に向けて業界をあげて取組めるように考えたい。また、設備費上乗せ要求による不透明な料金等ガス商慣行の是正議論が始まっている。6月頃までに議論の取りまとめがあると期待を寄せている。
	各種商品小売業	飲食店には緩やかな景気回復が見られるが、物品販売店ではまだ厳しい様子が見られる。街中は徐々にイベントが開催され、緩やかな客数増加傾向が見られた。
	花・植木小売業	花の仕入れの高値安定が続いている。入学・入社式の受注が多く、婚礼の受注はコロナ前に戻りつつある。気候が落ち着いたことにより葬儀件数の伸びは止まった。5月の母の日に関連する売上に期待が持てる。
サービス業	理容業	今年に入ってから組合脱退者数が増加傾向にある。後継者がいない高齢組合員の脱退が目立つ中、50・60代組合員の脱退も増加している。原因究明及び組合加入のメリットをアピールし、今後の課題としていきたい。
	自動車整備業	新たな組合員の開拓として、正組合員でなくとも準組合員なども視野に入れた。後継者問題を抱える組合員などに対して、新たな協力者の開拓を検討したい。
	給食センター	原料高騰に対しては、複数社を比較検討し原価率改善に努めている。エネルギー高に対しては、ボイラー機器の修繕及びLED化により大幅な経費削減に繋がった。今後の課題としては、各分野での採算をいかに効率よく確保できるかであり、引き続き原価見直しや設備修繕による稼働率向上に取り組んでいきたい。
	旅館・ホテル	前年比ほぼ横ばい。今年も県民割があったが早急に完売となり、残念ながらその効果は得られなかった。ゴールデンウィークは海外旅行が解禁となったこともあり、前半が弱かった。国の高付加価値事業のお陰で宿泊単価も上がったが、その一方で従業員不足から平日休館する宿が多くなり、今後の展望が全く予測できない。
建設業	総合工事業	G7に向けた道路整備等の発注が増加しているようだ。
	職別工事業	売上状況においては対前年同月と同等であるが、仕入単価の上昇が収益を圧迫している。また、深刻な人手不足もあり、業界の先行きは不透明である。
運輸業	貨物自動車運送業	新型コロナウイルス感染状況が落ち着きつつあり、工場の生産増による輸送量の好転が見られる。収益状況も、輸送コスト増に対し、荷主側への価格交渉・転嫁による適正価格の收受増加が好転に繋がってきている。
	貨物軽自動車運送業	前半は引越し業務、後半はゴールデンウィーク前の配送業務で配車に追われたが、中旬は依頼も少なく、4月全般で見ると低調であった。新型コロナウイルス感染症の5類移行後の動向に期待したい。
その他の非製造業	大谷石採石業	組合員の動向に変化はない。観光客は増えている。